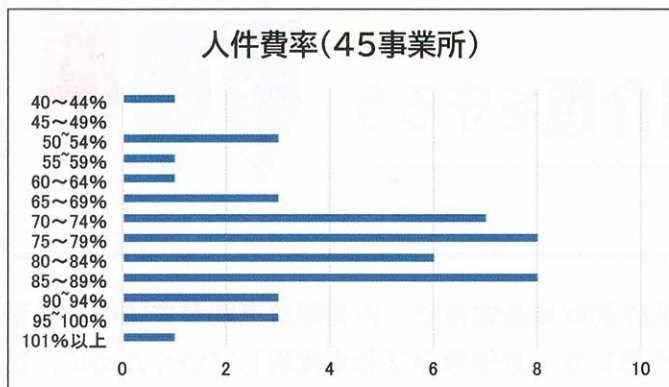


見えてくる経営の厳しさ



●ほとんどの事業者が訪問介護以外も運営

「介護保険以外のサービスを提供していますか」の問いには50事業所が「はい」と回答。採算性の質問とクロス集計すると、黒字になっている事業所のうち保険外のサービスを提供しているのは23事業所で、保険外サービスを提供しているが赤字の事業所が16であった。訪問介護だけでの運営の厳しさが見える。

●人件費が運営を圧迫

人件費率は回答45事業所で平均77.79%（区部：73.9%、市部：80.8%）だった。人件費率が80%を超える

事業所が21事業所（全体の36%）あり、運営の硬直化が懸念される。

このままでは「わが家で暮らし続ける」が危機に！

自治体が介護保険事業計画を策定する際に行う高齢者実態調査でも、可能な限り自宅に住み続けたいと思う人は多い。核家族や共働きが増えるなか、「介護の社会化」はこれまで以上に重要になっている。

生活者ネットワークには、仕事や子育てとのダブルケアや多重介護、老々介護の負担の声も聞こえている※1。生活支援や日常総合支援事業を担い、利用者に寄り添うケアを地域で続ける事業所を守ることは、高齢者とその家族を守ることである。

※1 東京・生活者ネットワーク「ケアラー支援 政策提案のための調査プロジェクト」2022年

URL <https://www.seikatsusha.me/research/carer/>

東京の訪問介護をささえるために

生活者ネットワークの提案

提案1

東京都は財政力を活かし訪問事業所へ直接支援を！

運営への補助で地域の在宅ケアを守ります。

一人ひとりの声を大切に政治へ！

提案2

自治体地域事業への支援を！

利用者ニーズに対応するため介護予防や日常生活総合支援事業に取り組んでいる事業所は、報酬の低さゆえ運営が厳しいことがわかりました。東京都の上乗せ支援で安定運営をサポートします。

提案3

国は訪問介護報酬の引き上げを！

訪問介護は在宅ケアの要。基本報酬アップでヘルパーを確保するよう東京から声を上げます。



●1976新潟県生まれ。新潟大学医療技術短期大学部看護学科卒。看護師。聖徳大学で心理学を履修。葛飾区の訪問看護ステーションで働く●2021区議会議員初当選。文教委員会、保健福祉委員会など



葛飾・生活者ネットワーク
区議会議員

沼田たか子

